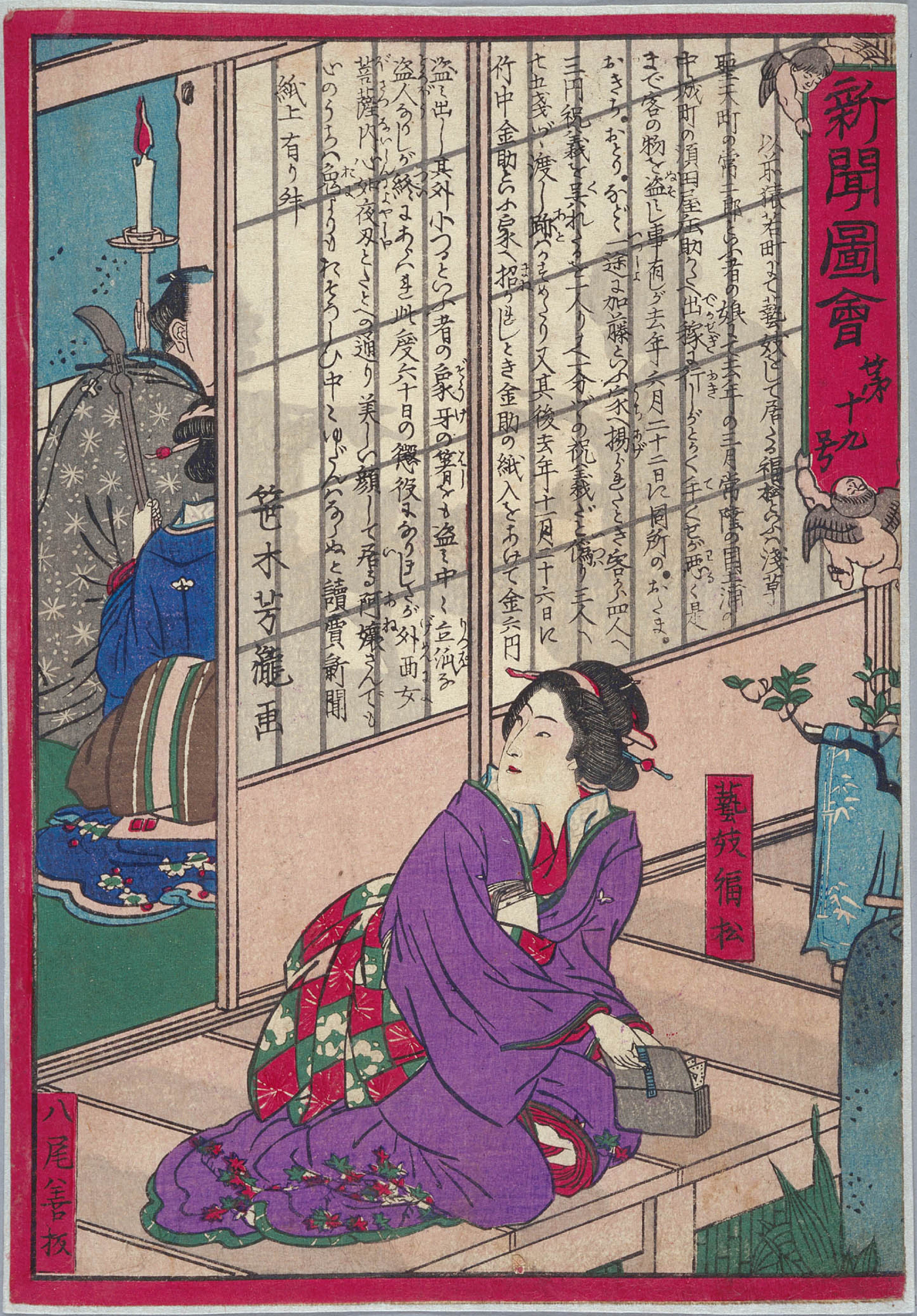
新聞圖會

第十九号



以前猿若町にて藝妓をして居る福松といふは浅草聖天町の常三郎といふ者の娘にて去年の三月常陸の國土浦の中城町の須田屋伍助方へ出稼に行しがとかく手くせが悪く是まで客の物を盗し事有しが去年六月二十二日に同所の●おくま●おきち●おとり●などゝ一緒に加藤といふ家へ揚りしとき客ゟ四人へ三円祝儀を呉れるを二人りへ一分づゝの祝儀だと偽り三人へ七十五銭づゝ渡し跡はつまめくり又其後去年十一月二十六日に竹中金助といふ家へ招れしとき金助の紙入をあけて金六円盗ミ出し其外小つるといふ者の象牙の笄までも盗ミ中々立派な盗人なりしが終にあらはれ此度六十日の懲役になりしが外面女菩薩内心如夜叉とたとへの通り美しい顔して居る阿嬢さんでも心のうちハ鬼よりもおそろしひ中々ゆだんのならぬと讀賣新聞紙上に有り升

笹木芳瀧画

八尾善板

新聞図会19号　文庫10-8069-14
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library